執筆にあたっての留意事項

（平成 15 年 11 月 26 日一部改正）
（平成 28 年 1 月 1 日一部改正）
（令和 8 年 9 月 1 日一部改正）

全ての投稿論文は論旨が明確でかつ一貫し、記述はくり返しを避け簡明である必要がある。原稿は A4 サイズの用紙に Microsoft Word ファイル（.docx）を用いて執筆する。文章は現代仮名づかいにしたがって仮名混じりとする。外国語の固有名詞は、外国語そのままを用い、病名、化合物名（薬品名を含む）は、学会等に慣用された日本名がある場合には、これらを用いるのを原則とする。該当する日本語がない場合は外国語のまま書く。原語の場合は小文字（固有名詞やドイツ語の頭文字は大文字）とする。普通名詞は文頭に限っては大文字とする。外国語の言語綴は行末で切れないようにする。変換できない文字や記号は手書きで明瞭に書き入れる。フォントサイズは 11～12 ポイントを使用する。フォントの種類は、原則として和文は MS 明朝体、英文は Times New Roman 体を使用する。

邦文の句読点は点（、）マル（。）を、英文の場合はカンマ（,）ピリオド（.）を使用する。

投稿に際しては表紙（第 1 ページ）に必要事項を記載し、後述する順とする。

〔第 1 ページに記載する事項、必要によって 2 ページ可〕
表題（邦文）
執筆者名（邦文）
所属と住所・TEL （内線まで)、FAX
所属（別刷請求先）と連絡先が異なる場合、連絡先の住所・TEL・FAX も記載する。
指導者名（必要のある場合のみ）
キーワード：3 語以上 5 語以内を日本語で記述し、選択に際しては医学用語辞典（南山堂）を参考とする。
（例）脊髄反射
原稿の種類（①原著、②総説、③ミニレビュー、④症例・臨床報告、⑤特別講演・最終講義、⑥プラザ、⑦シンポジウム・学会・研究会報告、⑧資料）の別刷部数（30 部・50 部・100 部・150 部……）
ページ番号は原稿の下の余白中央部分にタイトルページから始めて連番で付ける。原稿はホチキス止めせず、クリップ等で綴じて提出すること。

1. 原著論文（邦文）

〔表題〕論文の内容を表記した簡潔で明瞭な表題をつける。
（“……の研究”）というようなおおざっぱな表記は避け、新事実を明瞭に表記することが望ましい。
表題に略語の使用は好ましくない。認められている酵素名や同位元素は略字又は記号を用いる。
30 字を超える表題の場合は、30 字以内の（Running title）をつける。

〔要旨〕改ページし、読者が一読して論文の主旨がわかるように簡明に記載する。論文の内容により〔要旨と結論〕とすることは可能。400 字以内が望ましい。

〔はじめに〕改ページし、研究の位置づけを明記し実験・研究の目的を明示する。しかし過大な歴

史的考察は好ましくない。

〔研究材料および方法〕改ページし、材料、用いた方法、手法、実験条件などについて、正確かつ簡略に記述する。すでに発表されている操作方法、実験術式などについては、とくに改良法、変法でないかぎりその文献を引用する。重要な使用機器の場合は、名称の後に製造会社名、外国製の場合は国名までカッコ書きで記入することが望ましい。

〔結果（成績）〕改ページし、緒言で記載した研究目的と結果の記載は論理が一貫しなければならない。内容は、できるだけ図・表にとりまとめ、とくに注意を喚起すべきもの以外は、本文でそれらの数値を繰返し記述する必要はない。実験材料の供与を受けたり、実験の一部が他人の協力をえたような場合は、そのことを該当ページ脚注あるいは謝辞として明記する。

※　章には番号を記入せず、節・項等の区切の番号は、次の順序で用いること。1＞1)＞(1)＞①

1)　図・表・写真

一つの Figure あるいは Table は必ずそれぞれ 1 枚の用紙に印刷し、印刷面の用紙表面に Figure あるいは Table 番号を記す。用紙はそのまま印刷できる鮮明なものとし、電子データで提出する。図・表の縦罫線は用いない。横罫線は必要最小限にとどめる。電子顕微鏡及び光学顕微鏡写真にはスケールバーを写真の中に示すこと。図・表・写真は執筆者名、図・表番号、天地の指示（上下あるいは矢印）を明記する。一括して封筒に入れ原稿と共に提出する。特に大きさや配置に希望のある場合は別にレイアウト表を提出すること。図表の挿入箇所を、本文原稿の右欄外に赤ペンで指示する。

2)　図・表の名称

Fig.1,Table 1 として、本文中と図・表の名称を統一すること。図・表のタイトル及び説明文は写真版に含めず、後述する〔図・表の説明〕に記載する。なお、定量的な実験あるいは検査の記述は表よりグラフを用いたほうがよい。同一のデータを図と表の両方で示すことは避ける。

Figure：写真・グラフ・スキームなど

Table：表・箇条書・数値一覧など

3)　単位・符号

原則として単位、符号に関しては 1987 年 7 月 1 日告知された国際度量衡法（SI）で表記する。

(1)　接頭語には次のものを用いる。

10-18＝a (atto)	101＝da (deca)
10-15＝f (femto)	102＝h (hecto)
10-12＝p (pico)	103＝k (kilo)
10-9＝n (nano)	106＝M (mega)
10-6＝μ (micro)	109＝G (giga)
10-3＝m (milli)	1012＝T (tera)
10-2＝c (centi)	1015＝P (peta)
10-1＝d (deci)	1018＝E (exa)

(2)　度量衡の単位は

①　重さ: t, kg, g ,mg,μg, ng, pg など

②　長さ: m, cm, mm,μm, nm など

③　容積:l, dl, ml,μl, nl, pl, fl など

④　濃度:g/l, mg/l, mol/l など

⑤　時間:d, h, min, s, ms（日時、分、秒、ミリ秒）など

⑥　電気諸単位

(volt):μV, mV, V, kV, MV,
(ampere):μA, mA, A, kA,
(ohm): mΩ, Ω, kΩ, MΩ,
(watt):μW, mW, W, kW, MW,
(farad):pF,μF など

⑦ 放射線等の単位:1 Gy,1 Bq,1 C/kg,1 Sv
但し、障害防止に関する法令についての記述には、その法令に規定している単位を用いてよい。核種の表記は、元素記号の左肩に質量数を書く。例（□□□Tc-,□□Ga-）
磁気共鳴に関する撮像や記号取得の条件は、次のように書 500/30/4 (TR/TE/excitations) あるいは 1500/300/30/1 (TR/TI/TE/excitations) の様に表現する。

〔考察〕改ページし、得られた結果についての客観的論述をするためサブタイトルをつけ結果のどの部分の考察かをわかりやすく記述する。単なる歴史的考察、仮説的論議はさける。

〔結論〕改ページし、論文の結論を記載する。箇条書が望ましい。また論文の内容により前述したように〔要旨と結論〕とし（表題）のあとに記載してもよい。

〔COI 申告の開示〕

1) COI 申告開示の記載場所：
著者の COI 状態の開示は，発表論文の本文の次に記載し，その後に謝辞，引用文献を記載する。
2) COI 申告開示の仕方：
(1) 申告開示のない場合
記載例：著者の COI（conflicts of interest）開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし
(2) 申告開示のある場合
COI（conflicts of interest）申告開示：報酬，株式利益，特許使用料，講演料，原稿料，研究費・助成金，寄付金，寄付講座，旅費・贈答品の順番にて，著者名ごとに論文発表内容に関連し COI 状態（項目ごとに基準額を超えている場合）にある企業・組織または団体名を記載する。
記載例：著者の COI（conflicts of interest）開示：東医太郎；講演料（東医製薬），寄付金（東医製薬，東医八王子製薬），講演料（東医製薬），研究費・助成金（東京製薬），寄付金（東医薬品），寄付講座（東医製薬），旅費・贈答（東医製薬）

〔謝辞〕できるだけ簡潔にし、ここに研究費の出所なども記載する。共同著者に対する謝意は避ける。

〔略語〕本誌の性格上、略語は関連領域では周知のものであってもなるべく避けること。略語を使用する場合は、論文中の始めに出てくる個所でスペルアウト（無省略語）し、以下を（……と略す）と断りを入れる。多くの略語を頻繁に使用する場合は、略語一覧表を付けることが望ましい。

〔文献〕改ページし、本論文の内容ととくに関連するものを選択する。本文中では引用文献順とし、……という報告がある[1,2)]のように肩に番号をふる。
いずれの場合も統一したスタイルで記載することが必要である。スタイルは、バンクーバー方式（姓・名の順）とする。論文のタイトルの文頭のみ大文字とし、あとは小文字で書く。本文の引用

順に著者名：題目。雑誌名巻：始ページ終ページ,発表西暦年号の順に記載する。単行本の場合は、著者名:題目。書名（編者名）引用ページ、出版社名（場所)、発行西暦年号とする。
雑誌名は公式の略号を用い、巻（(号)は不要）・頁・年の順に書く。頁のつなぎは「－」（ハイフン）とする。雑誌名の最後にはピリオドをつけない。文献表（例）では原則として全ての執筆者名を書く。（et al・他）などの表記はさける。
雑誌名の省略方法は国際基準を参照とするが、国別により表記方法が異なるので、注意する。電子資料による参考文献の場合はインターネットアドレスを記載する。
英語論文で日本語文献を引用する場合には「In Japanese with English abstract」と表記する。

1) Robins SL: Textbook of pathology. Saunders, London, 124-136, 1967
2) Couniban T, Messer AL, Sprague HB: The initialvibrations of the first heart sound. Circ Res 3: 730-732, 1968
3) Link GKK: Bacteria in relation to plant diseases. Newer knowledge of Bacteriology and Immunology. (Eds) Jerdan EO and Falk IS, Univ Chicago Press, Chicago, 590-606, 1967
4) 小柳恭久、長江逸郎、多村幸之進、吉松昭彦、伊藤伸一、青木達哉、木村幸三郎:先天性胆道拡張症に対する肝門部肝十二指腸吻合。東医大誌 51: 576-583, 1993

〔図・表の説明〕図・表の説明は全て英文とする。改ページし、「図・表・写真等の説明」のページを設け、各図・表・写真の説明を読んだ読者が図・表の内容がわかるように記載する。また説明だけでなく Figure や Table の中の記載も全て英文表記とする。

〔英文抄録〕英文による表題・執筆者名・所属・要旨・キーワードをつける。
邦文原著の最終ページに記載する。
要旨は読者が一読して論文の主旨が明確にわかるように 300 語以内にまとめてダブルスペースにし、A4 サイズの用紙を用いる。日本で特有の薬品テスト方法などについてふれる場合は、本文中にその説明がなくてもできるだけ説明を加える。数字が文頭にある場合はスペルアウトし（例：1→one)、文章中ではアラビア数字を用いる。キーワードは 3 語以上 5 語以内とする。例：Spinal reflex（最初の文字は大文字とする)。選択に際しては Medical Subject Headings, Index Medicus を参考とする。

〔原著が英文の場合〕論文作成上の注意は原著（邦文）に準じる。本文は A4 ダブルスペースで 30 枚以内、刷り上がり 10 ページ（原稿用紙 3 枚で刷り上がりが約 1 ページとなる）以内とする。日本語による表題・執筆者名・所属・要旨・キーワードをつける。日本語要旨約 800 字とする。なお外国からの投稿論文の場合日本語要旨を省くことができる。

注意事項

※ タイトルは文頭のみを大文字で記載する。
例：Percent wall thickness evaluated by Gd-DTPA enhanced cine MRI…
※ 60 字を超える表題には 60 字以内の Running title を付ける（スペースも 1 字と数える)。
※ 副題は出来るだけ使用しないようにし、やむを得ず使用する場合は本タイトルとの間をコロン（：）で区切る。
※ 筆者及び指導者名は例に準じる。
※ 例：Taro OKADA
※ ※コロン（：）及びセミコロン（；）の次に 1 字分のスペースを入れる。

2. 総説

論文作成上の注意は原著論文（邦文）に準ずる。ただし、引用論文をアルファベッド順にしてもよい。すでに発表されている図を引用する場合、出版社のサイン・印のある掲載許可証を添付すること。（外国出版社へは許可証（例）を 2 部送り、1 部は出版社が保管し、1 部は筆者に送られてくる。）

3. 最終講義・特別講演

講演者が、本投稿規定を参考に論文を構成する。

4. ミニレビュー、症例報告・臨床報告

本文の作成は、原著論文（邦文）に準ずる。

5. プラザ

医学・医療・医学教育並びに一般教育に関する事柄
学会・医療のトピックスと動向
国際誌に掲載された論文のミニレビュー
医療行政一般に関する事柄
実験研究一般に関する事柄
関連病院の事柄
医師会に関する事柄
留学・国際協力に関する事柄
その他

論文の構成と論文作成上の注意は原著論文（邦文）と総説に準ずるが、内容が多岐にわたるため、著者の責任でこれを変更することができる。

6. 本学で行われるシンポジウム・学会・研究会

講演者が、本投稿規定を参考に A4 版用紙を用い記入し、記録媒体とともに提出すること。

7. 資料

本誌編集委員および本学会事務局と相談の上、投稿できる。

【訂正および再投稿について】

① 編集委員会は投稿原稿について訂正を求めることがある。
② 訂正を求められた原稿は、指摘された事項に対する回答を別に付記する。
③ 本文内訂正箇所はアンダーラインを引くか、マーカーペンにてわかるようにする。
④ 訂正箇所が初校時と大幅にページが異なる場合は、何ページの何行と示す。
⑤ 訂正後はできるだけ速やかに再提出すること。

【 誓　　約　　書 】

東京医科大学医学会
編集委員会　御中

論文名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

表記投稿論文は、その内容が今まで他誌に掲載されたことがなく、投稿予定のものでもありません。
本論文は倫理指針に準拠し、データの捏造および剽窃についても行われていないことを誓います。また、利益相反（COI）については、自己申告書に相違ありません。

表記論文が、東京医科大学雑誌に掲載された場合は、その著作権が東京医科大学医学会に帰属することを承諾致します。

令和　　年　　月　　日

筆頭著者署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　6. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
2. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　7. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
3. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　8. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
4. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　9. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
5. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　10. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＊　全著者の自筆署名を筆頭著者、共著者の順に列記してください。

投稿論文チェック表

令和　　年　　月　　日

□にチェックを入れ、誓約書、COI 自己申告書とともに論文の一番上につけてご投稿ください。

筆頭著者名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　所　　属＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

責任者署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

論 文 題 名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

原稿種類：　□　原著　□　原著(学位論文)　□　総説　□　ミニレビュー　□　症例・臨床報告
□　プラザ　□　その他（　　）

□　論文の構成は整っていますか。□該当しない。
（和文原著の場合…表題、要旨、はじめに、研究材料および方法、結果（成績）、考察、結論、文献、図表説明、英文要旨）
□　表題ページから通しでページ番号が記載されていますか。
□　所属(別冊請求先)と連絡先が異なる場合、連絡先の住所・所属・TEL・FAX を記載していますか。
□　キーワードは適切なものが記載されており、英和両方揃っていますか（各 5 語以内)。
□　和文要旨、英文要旨はありますか。
□　略語を使用する場合は、初出時にスペルアウトし、以下を（…と略す）と断りを入れていますか。
□　文献は引用順になっていますか。
□　文献記載方法に誤りはありませんか。
□　図表の説明(legend)は別紙になっていますか。
□　図表(写真)の挿入箇所は、本文原稿の右欄外に赤ペンで指示していますか。
□　図表(写真)の裏に執筆者名、図・表番号、天地の指示、カラー掲載を希望する場合には、その旨を明記していますか。
□　誓約書は添付していますか。
□　責任者または指導者のチェックを受けていますか。また、全ての著者に投稿の了承と同意を得ていますか。
□　患者のプライバシー保護に関しては、東京医科大学雑誌の指針に準拠していますか。□該当しない。
□　動物実験の研究では大学動物実験規程（平成 19 年 6 月 4 日制定）を遵守していますか。□該当しない。
□　利益相反（COI）に関して自己申告書は添付していますか。
□　著者は全員本学会員で会費は納入済みですか。
□　論文はオリジナル 1 部とコピー2 部がそろっていますか。
□　その他、投稿規定の各項目について、もう一度ご確認ください。

東京医科大学雑誌 利益相反(COI)自己申告書

筆頭著者		**施設名 所属名**	
投稿論文名			

(投稿時から**遡って過去 1 年以内**の発表内容に関係する企業・組織または団体との COI 状態を記載してください。なお、共著者についても記載して提出してください。)

項目	該当の状況	(有)の場合、筆頭者および共著者の氏名:企業名などの記載
企業や営利を目的とした団体の役員、顧問職など報酬額 (1 つの企業・団体から年間 100 万円以上を記載)	有 ・ 無	例. 東医太郎:●●●株式会社 東医次郎:◆◆◆製薬株式会社
株の保有および利益 (1 つの企業から年間 100 万円以上, あるいは当該株式の 5%以上保有のものを記載)	有 ・ 無	
企業や営利を目的とした団体から知的財産権使用料として支払われた報酬 (1 つにつき年間 100 万円以上を記載)	有 ・ 無	
企業や営利を目的とした団体から支払われた講演料・原稿料・指導料など (1 つの企業・団体からの年間合計 50 万円以上を記載)	有 ・ 無	
企業や営利を目的とした団体が提供する研究費(委託受託研究、共同研究)・助成金など (1 つの企業・団体からに支払われた年間総額が 100 万円以上を記載)	有 ・ 無	
企業や営利を目的とした団体が提供する奨学(奨励)寄付などの総額 (1 つの企業・団体から支払われた年間総額が 100 万円以上を記載)	有 ・ 無	
企業や営利を目的とした団体が提供する寄附講座、産学連携講座との関連の有無 (企業などからの寄附講座に所属している場合に記載)	有 ・ 無	
研究とは無関係な旅費, 贈答品などの受領 (1 つの企業・団体から年間 5 万円以上を記載)	有 ・ 無	

(本 COI 申告書は論文掲載後 3 年間保管されます。理由なく東京医科大学雑誌編集委員以外が閲覧することはありません。)

申告日 (西暦) 年 月 日

責任著者 (corresponding author／論文指導者)

(署名) ㊞

症例報告を含む医学論文における患者プライバシー保護に関する指針

平成 20 年 1 月

東京医科大学雑誌編集委員会

医療を実施するに際して患者のプライバシー保護は医療者に求められる重要な責務である。一方、医学研究において症例報告は医学・医療の進歩に貢献してきており、国民の健康、福祉の向上に重要な役割を果たしている。医学論文あるいは学会・研究会において発表される症例報告では、特定の患者の疾患や治療内容に関する情報が記載されることが多い。その際、プライバシー保護に配慮し、患者が特定されないよう留意しなければならない。

平成 17 年 4 月 1 日より個人情報保護関連 3 法が施行されたことに伴い、東京医科大学雑誌に掲載される症例報告を含む医学論文については、以下の指針を遵守し、患者プライバシー保護に努めるものとする。

1. 患者個人の特定が可能となる氏名、カルテ番号、入院番号、イニシャルまたは「呼び名」等は記載しない。
2. 患者の住所は記載しない。但し、疾患の発生場所が病態等に関与する場合は区域（神奈川県、横浜市など までに限定して記載することを可とする。
3. 日付は、臨床経過を知る上で必要となることが多いので、個人が特定できないと判断される場合は年月までは記載してもよい。
4. 既に他院などで診断・治療を受けている場合、その施設名ならびに所在地を記載しない。但し、救急医療などで搬送元の記載が不可欠の場合はこの限りではない。
5. 顔を含む写真を提示する際には個人が特定出来ないように目を隠す。眼疾患の場合は、顔全体が分からないよう眼球部のみの拡大写真とする。
6. 症例を特定できる生検、剖検、画像情報に含まれる番号などは削除する。
7. 以上について配慮することはもとより、個人の特定化の有無にかかわらず、発表に関する同意を患者自身（または遺族か代理人、小児では保護者等）から得る。
8. 前項の手続きが困難な場合は、筆頭著者の所属する施設における倫理委員会もしくは本学医学倫理委員会の承認を得ることが望ましい。
9. 臨床研究など医学系研究の個人情報の取り扱いについては、「臨床研究に関する倫理指針」（厚生労働省）（平成 20 年 7 月 31 日改正）による規定を遵守する。
10. 疫学研究に関しては、「疫学研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省）（平成 19 年 8 月 16 日改正）による規定を遵守する。
11. 遺伝子疾患やヒトゲノム・遺伝子解析を伴う症例報告では「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）（平成 16 年 12 月 28 日改正）による規定を遵守する。

― 記録媒体による論文入力の留意事項 ―

査読終了後の完成論文を記録媒体で提出することにより、
制作期間の短縮と制作費の低減につながりますのでご協力ください。

電子データ提出について

1. 使用記録媒体の種類は特に定めません。
2. 使用 OS：Windows または Macintosh
3. ファイル形式は使用アプリケーションの保存形式で保存しご提出ください。なおご提出いただいたファイル形式にてデータが読み込めなかった場合は、テキスト形式をはじめ別途指定のファイル形式にてご提出いただく場合もございます。
4. Table や Fig.を表計算アプリケーションやドロー系アプリケーションで作成した場合には、そのアプリケーション名とバージョンを記録媒体に明記してください。
5. 必ずバックアップを取っておいてください。（郵送中に CD・USB フラッシュメモリ等のデータ破損などが予測されます。）
6. 記録媒体には論文受理後訂正の済んだ最終原稿を保存し、論文以外の他の文書等が保存されていないようにしてください。
7. 記録媒体のラベルには次のことを記入してください。
   - 論文タイトル
   - 作成者氏名
   - 所属
   - 使用 OS
   - 使用アプリケーション
   - 提出年月日

データ入力について

1. 数字とローマ字はすべて半角で入力し、それ以外の和文は全角で入力してください。
2. 改行（Enter）は段落の終わりのみ入力し、文章中の各行毎には絶対に入力しないでください。
3. 和文では読点「、」および句点「。」を使用し、英文ではカンマ「,」およびピリオド「.」を使用してください。
4. ―（ダッシュ）と - （ハイフン）、×（カケル）と X（エックス）、1（イチ）と l（エル）、O（オー）と 0（ゼロ）など区別して入力してください。

プリントアウトについて

1. 「表紙」「要旨」「はじめに」「研究材料および方法」「結果（成績）」「考察」「結論」「謝辞」「文献」「脚注」「Fig. 説明文」「Table」「Fig.」「英文要旨または日本語要旨」などに分け、各項目ごと改ページにしてプリントアウトしてください。
2. プリントアウトの書式設定は A4 判で上下の余白をそれぞれ 25mm ずつ、左右はそれぞれ 30mm ずつ余白を付けてください。
3. Figure や Table をプリントアウトで提出する場合は、文字や線が鮮明に出力されたものをご用意ください。提出された紙原稿は、スキャンし、制作データとして使用いたします。図表内の文字は、掲載時には縮小されることがあるため、縮小後も判読できる大きさで作成してください。目安として、最終掲載サイズで 7 ポイント以上となるようにしてください。
4. フォントの種類は、和文は明朝体、英文は Times New Roman 体を使用してください。
5. Figure や Table などへの網かけは避けてください。
6. 写真・図版をデジタルデータで提出される場合、解像度は、掲載時の仕上がりサイズ（原寸）で以下を目安としてください。
   - カラー写真:350dpi 以上
   - モノクロ写真:300dpi 以上
   - 図版(グラフ・イラスト等):300dpi 以上

   ファイル形式は TIFF または JPEG(高画質設定・低圧縮)を推奨します。JPEG の場合、圧縮率を上げすぎると画質が劣化し品質が保てませんのでご注意ください。
   なお、プリントアウトで提出される場合は、スキャンのうえデータ化し使用いたしますが、原稿の状態や出力品質によっては、十分な品質が得られないことがありますので予めご留意ください。
7. Figure や Table の挿入希望箇所は本文のプリントアウトの右側余白に指定してください。